

「レプラ患者の癒し」

§ 045 マコ 1 : 40~45、マタ 8 : 2~4、ルカ 5 : 12~16

1. はじめに

(1) 前回の箇所、4人の弟子たちが召された。

①2つの癒しの記事が続く。

*レプラ患者の癒し(この癒しは、特別なものである)

*中風の人の癒し

②ともに、メシアの権威を証明する奇跡である。

③宗教的指導者層との対立が激しくなる。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

レプラ患者の癒し (§ 45)

マコ 1 : 40~45、マタ 8 : 2~4、ルカ 5 : 12~16

2. 用語についての考察

(1) ギリシア語の「レプラ」の訳語

①かつては、「らい病」と訳されていた。

②英語では、「leprosy」である。

③これらの用語は、医学的には、「ハンセン氏病」と呼ばれるものである。

④しかし、当時のパレスチナには、この病気はなかった。

*これは、慢性の皮膚病であろう。乾癬(かんせん)がその例である。

*織物、編物、皮製品に関する言及もある(レビ 13 章)。

*家の壁に関する言及もある(レビ 14 章)。

⑤「らい病」という用語には、悲しい歴史がある。

*偏見にまみれた言葉である。

*キリスト教界にも、偏見があった。

(2) 反省に立った新しい訳語

①「ツアラアト」(新改訳第3版)

②「重い皮膚病」(新共同訳)

*これ自体、問題を起こす可能性がある。

3. アウトライン(ルカ 5 : 12~16)

(1) 絶望(12節 a)

- (2) 懇願 (12 節 b)
- (3) 癒し (13 節)
- (4) 癒しの結果 (14~16 節)

4. メッセージのゴール

- (1) メシア時代の到来
- (2) 新約時代の到来

このメッセージは、新しい時代の到来について学ぼうとするものである。

I. 絶望 (12 節 a)

「さて、イエスがある町におられたとき、全身ツァラアトの人がいた」

1. この人は、ユダヤ人のレプラ患者である。

- (1) なぜなら彼は、癒しの後、モーセの律法の定めに従っていけにえを捧げている。
 - ①彼は、モーセの律法のもとにいる。

(2) 後で見るが、ユダヤ人のレプラ患者が癒されるのは、これが初めてである。

2. レビ記 13~14 章にツァラアトに関する規定がある (合計 116 節)

「ある人のからだの皮膚にはれもの、あるいはかさぶた、あるいは光る斑点ができ、からだの皮膚にツァラアトの患部が現れたときは、彼を、祭司アロンか、祭司であるその子らのひとりのところ連れて来る。祭司はそのからだの皮膚の患部を調べる。その患部の毛が白く変わり、その患部がそのからだの皮膚よりも深く見えているなら、それはツァラアトの患部である。祭司はそれを調べ、彼を汚れていると宣言する」 (レビ 13 : 2~3)

(1) ツァラアトの判定を下すのは、祭司である。

- ①ツァラアトは、儀式的に汚れている状態にある。
- ②幕屋や神殿に入ることができない。霊的祝福を受ける機会が奪われた。
- ③ツァラアト患者に触れると、その人も汚れた状態になる。
- ④ラビの中には、ツァラアトは罪の結果(象徴)であると強く主張する者もいた。
- ⑤キリスト教会もまた、長年、同様の過ちを犯してきた。
- ⑥しかし聖書は、そこまでは強調していない。
- ⑦モーセの律法の多くは、神の聖さを教えるためのものである。

(2) ツァラアトの判定を受けた者は、絶望状態に陥る。

「患部のあるそのツァラアトの者は、自分の衣服を引き裂き、その髪の毛を乱し、そ

の口ひげをおおって、『汚れている、汚れている』と叫ばなければならない』

(レビ13:45)

- ①その患者は、自分の衣服を引き裂く。
- ②家族や共同体を離れて、隔離された地区に住むようになる。
- ③髪の毛を乱し、目から下の顔の部分を覆う。
- ④歩く時は、「汚れている、汚れている」と叫ぶ。
- ⑤実に悲劇的であるが、目的は、ツアラアトの伝染を防ぐためである。
- ⑥微生物や細菌に関する知識がない時代の規定としては、驚くべきものである。

II. 懇願 (12節b)

「イエスを見ると、ひれ伏してお願いした。『主よ。お心一つで、私をきよくしていただけます』」(12節b)

1. レプラ患者の態度

(1) 彼は、「ひれ伏してお願いした」。

- ①この動作は、旧約的なもの。
- ②神に祈りを捧げる時の姿勢である。

(2) 「主よ」

- ①キュリオス (キュリエ) という呼びかけ。
- ②シモンが同じ呼びかけをした。

「これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、『主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから』と言った」(ルカ5:8)

- ③前者はイエスに近づき、後者はイエスから離れていく。
- ④ともに、健全な応答である。

2. レプラの患者の信仰

(1) 訳語の比較

「主よ。お心一つで、私をきよくしていただけます」(新改訳)

「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」(新共同訳)

「主よ、みこころでしたら、きよめていただけるのですが」(口語訳)

「主よ、御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん」(文語訳)

「お願いでございますっ！ どうぞ私の体を、体をもとどおりにしてください。あなた様のお気持ちひとつで治るのですから」(リビングバイブル)

- (2) 彼は、イエスにはツァラアトを癒す力があると信じていた。
- ①「主よ」という呼びかけの言葉が、それを示している。
- (3) しかし、イエスが、実際にそうしてくださるかどうかが確信がなかった。
- ①愛されたことのない人は、愛を受けることに慣れていない。
- ②彼は、自分の存在について自問自答したことであろう。
- (例話) ユダヤ民族は、愛を示された時、どう振る舞えばよいのか分からない。
- (例話) 韓国の孤児院で育った女性の証し。相手に唾を吐く。

Ⅲ. 癒し (13 節)

「イエスは手を伸ばして、彼にさわって、『わたしの心だ。きよくなれ』と言われた。すると、すぐに、そのツァラアトが消えた」

- (1) イエスの憐み
- ①イエスは、ことばを発するだけで癒しを行えた。
- ②しかし、手を伸ばして、彼にさわった。
- ③本来は、ツァラアト患者に触れると、汚れるとされた。
- ④ペテロの姑の癒しの場合も、「手を取って起こされた」とある(マコ1:31)。
- ⑤「わたしの心だ」と言われた。
- (2) イエスの力
- ①「きよくなれ」は、ギリシア語で一言「καθαρισθητι」。
- ②即座に癒された。
- (3) 魂と肉体の癒し
- ①ツァラアトの宣告を受けてから、彼は、他人から触れられたことがなかった。
- ②イエスのことばと行動によって、彼は全人的に癒された。

Ⅳ. 癒しの結果 (14~16 節)

1. 14 節

「イエスは、彼にこう命じられた。『だれにも話してはいけない。ただ祭司のところに行って、自分を見せなさい。そして人々へのあかしのため、モーセが命じたように、あなたのきよめの供え物をしなさい』」

- (1) 「だれにも話してはいけない」

- ①群衆が、奇跡にとらわれ過ぎないように。
- ②イエスのメッセージが、正しく理解されるように。

(2) レビ記13章、14章には、レプラから癒された場合の手続きが記録されている。

- ①イエスは、モーセの律法に従ったきよめの手順を指示している。
- ②2羽の生きているきよい小鳥を取り、1羽をほふる。
- ③生きている小鳥を血に浸し、それから野に放す。
- ④小鳥の血を癒された人に、7度振りかける。
- ⑤7日間の厳しい観察の期間が続く。
- ⑥その後、癒されたと宣言される。
- ⑦8日目に、4種類の捧げ物を捧げる。
 - *罪過のためのいけにえ
 - *罪のためのいけにえ
 - *全焼のいけにえ
 - *穀物の捧げ物
- ⑧罪過のためのいけにえの血を取り、それをきよめられる者に塗る。
 - *右の耳たぶ
 - *右手の親指
 - *右足の親指
- ⑨同じ場所に、オリーブ油を塗る。
- ⑩その後、ユダヤ人社会に復帰することができる。

2. 15～16節

「しかし、イエスのうわさは、ますます広まり、多くの人の群れが、話を聞きに、また、病気を直してもらいに集まって来た。しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた」

- (1) イエスの意図通りにはならなかった。
- (2) イエスは、荒野に退いて祈っておられた。
 - ①これは、イエスの日常の習慣であった。

結論

1. メシア時代の到来

- (1) これは、ユダヤ人のツァラアト患者が癒された最初の例である。

①祭司たちは、このために「きよめの供え物」を捧げたことがなかった。

(2) ミリアムの例

「雲が天幕の上から離れ去ると、見よ、ミリアムはツアラアトになり、雪のようになっていた。アロンがミリアムのほうを振り向くと、見よ、彼女はツアラアトに冒されていた」(民12:10)

①この癒しは、モーセの律法が完結する前の出来事である。

(3) ナアマン將軍の例

「そこで、ナアマンは下って行き、神の人の言ったとおりに、ヨルダン川に七たび身を浸した。すると彼のからだは元どおりになって、幼子のからだのようになり、きよくなった」(2列5:14)

①ナアマンは、シリア人であった。

(4) ユダヤ教では、奇跡は「一般的な奇跡」と「メシア的奇跡」に分類される。

①ツアラアトの癒しは、メシア的奇跡である。

②祭司たちは、それを理解した。

③一般民衆も、それを理解した。

④メシア的奇跡の場合は、通常の反応とは異なる反応が返って来た。

(5) ユダヤ人たちが待ち望んでいたメシア時代が到来したのだ。

(例話) イスラエルに初めて降り立った時

①国家的に危機に際して、預言者たちはメシア的王国を預言した。

②バビロン捕囚以降も、同じである。

③マラキ以降、メシア待望の時代になる。

④バプテスマのヨハネの登場

⑤そして今、民族的期待が成就した。

⑥しかし彼らは、態度を保留にしている。

2. 新約時代の到来

(1) イエスは、モーセの律法に忠実であった。

①パリサイの律法(口伝律法)には反対された。

(2) イエスの死によって、モーセの律法の要求はすべて満たされた。

①しかし、いまだにモーセの律法に支配されているクリスチャンがいる。

(3) 私たちは今、キリストの律法に従って生きている。

「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい」

(ガラ6:2)

(例話) 35年間、アメリカに不法入国を繰り返したメキシコ人

- ①愛の律法
- ②聖霊の律法
- ③「聖霊に満たされよ」